

水草研究会第13回全国集会報告

第13回全国集会は、1991年8月2日(金)～3日(土)の2日間、神戸市垂水区の「舞子ビラ」を会場に行われた。参加者は、北は青森県、南は佐賀県におよび計57名であった。

8月2日は、研究発表、総会、懇親会がもたれた。今回は11題の講演申込みがあり、時間的にはかなり過密なスケジュールとなったが、最後まで内容の充実したものであったと思う。講演題目は次のとおりである。

1. 竹下 信 (伊丹市) : コカナダモの衰退とオオカナダモの優占が進む武庫川・猪名川水系 (兵庫県)
2. 橋本卓三 (東広島市) : 福山市松永地区 (広島県) のため池の水草
3. 大滝末男 (東京都) : 釧路湿原の湖沼内の水草 (付) 北海道のおもな湖沼における水草概観
4. 嶋田直哉 (小平市) : 最近の水草事情について
5. 碓井信久 (神戸市舞子中) : 幻の水草 “タシロカワゴケソウ” の再発見
6. 中村俊之 (神戸大学理学部)・角野康郎 (神戸大学教養部) : クロモの種内変異
7. 堀川恵理子 (新潟県和內小)・福原晴夫 (新潟大学教育学部) : 新潟県におけるコウキクサ・アオウキクサの分布と生態
8. 相生啓子 (東京大学海洋研) : 熱帯水草の特性
9. 長田光世 (千葉大学自然科学研究科) : 横浜市本牧市民公園トンボ池の水草定着状態と今後の管理について
10. 桜井善雄 (信州大学繊維学部) : 鳥類の生息環境を考えた水辺の植生復元
11. 角野康郎 (神戸大学教養部) : 兵庫県南部のため池の水草ーバス見学ガイドをかねてー

次いで、総会は尾崎富衛氏の議長で行われ、加崎英男会長の挨拶に続いて、別記の報告と審議が行われた(次頁参照)。

夜の懇親会は、昨年の新潟のようにおいしいお酒とお米というわけにはいかなかったが、時間いっぱい、いろ

いろな話に花が咲いた。

翌8月3日は記念写真の撮影の後、バス見学に出発、最初に訪れたのは、明石市大久保町西島にある大池である。ここは毎年のようにオニバスの群生が見られるところなのだが、今年は今ひとつ勢いが無い。それでも池の3分の一ほどはオニバスにおおわれ、播磨地方のオニバス群落の一端をお見せすることができたと思う。

次いで加古川市平荘町の山田池を訪ねた。ここは、イトタヌキモ、イヌタヌキモ、ノタヌキモのタヌキモ類3種のほかに、オニバス、ヒシ、カガブタ、クロモ、タチモ、キクモ、オオトリゲモなど、水草の種類が多い池である。とくに今回はイトタヌキモが水面に浮遊した状態で開花している様子を観察することができた。

昼食の後、加東郡社町上久米のため池群を観察した。ここでは大型バスが池の近くまで入れないので、詳しい地図を配ってオリエンテーリングの感じで自由に歩いていただいた。ヒメコウホネやジュンサイが生育する山間のため池の様子が観察できた。

最後は吉川町の小池沼群である。1アール前後の小さな池がかなりの密度で散在しており、ジュンサイやタヌキモ類が豊かに生育している。ただし、一箇所にはハナガガブタ(いわゆるバナナプラント; 表紙写真参照)が投げこまれて定着しているのが、目障りである。

この後、一路南へ戻り、西神中央駅、JR西明石駅、舞子ビラと3箇所からそれぞれ帰路についた。

最後に、いろいろと不行届きもあったことと思いますが、今回の集会を盛り上げていただいた参加者の皆様にお礼申し上げます。

(角野康郎 記)

〔総会報告〕

I 報告事項

1. 会員状況 (1990. 8～1991. 7)

新入会	16名
退会	4名
現会員数	275名

2. 1990年度事業報告

★会報発行 No.39～No.42 (計80ページ)